

取扱説明書 Ver 3.00

SDE-001-IV-US

アメニティドームM アイボリー



警告

このテントの生地には炎や熱源を近づけないでください

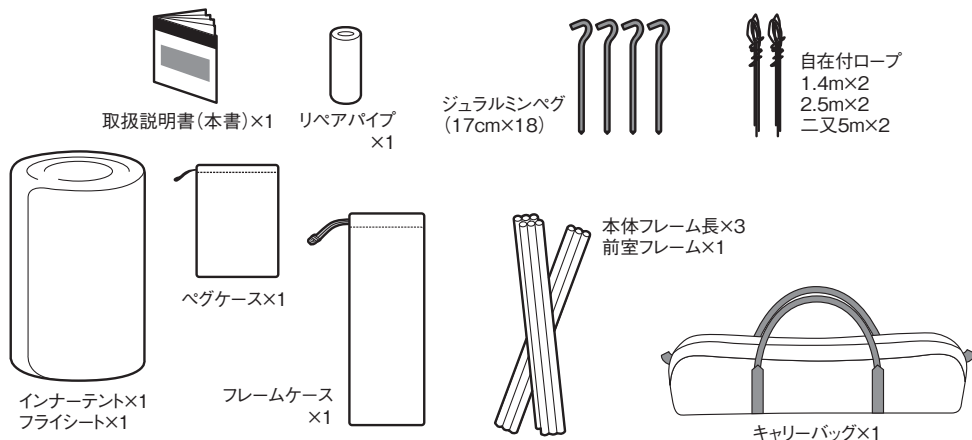
このテントは、米国の難燃性基準 CPAI-84 に適合した生地を採用していますが不燃素材ではありません。

この生地は、裸火や炎に接触すると燃えるおそれがあります。

また、汚れ等がテント生地に付着すると、難燃性が低下します。

このたびはスノーピーク製品をお買い上げいただき誠にありがとうございます。本製品はキャンプ用のテントです。安全にご使用いただくためにも必ずこの取扱説明書をよく読んでからご使用ください。また、読み終わった後も大切に保管してください。製品には万全を期しておりますが、フィールドでご使用する前に安全な場所で組立、取扱い方法及び付属品の確認をしてください。説明内容で理解できない点及び製品に不具合が確認された際には、直ちに使用を中止しご購入いただきました販売店様もしくは弊社ユーザーサービスまでお問い合わせください。

セット内容



セット内容は一般的な条件下での設営を基本としたものです。頑丈で長めのペグや、ロープなどを用意されると、柔軟な対応が可能となります。ペグやロープ、自在などは消耗品ですので、常に予備を携帯することをお勧めします。

安全上の注意事項 ご使用前によく読んで予測される事故を回避し安全にご使用ください。

△ 危険 明らかに生命に関わる重大な事故が予測される行為を示します。

- テント内では燃焼式のランタンやコンロ、ヒーターなどの熱源や、マッチ、ローソク、ライター、タバコなどの裸火や炎は絶対に使用しないでください。限られた空間での火気の使用は火災や酸欠、一酸化中毒などのおそれがあり大変危険です。
- テント内で燃料を保管したり、燃料を補給するなど、引火性のあるものを持ち込まないでください。

△ 警告 取扱いを誤った場合、使用者が死亡または重傷を負う可能性があることを示します。

- 気象状況には常に細心の注意を払い、風の強い時や悪天候が予想されるときは速やかに撤収して安全な場所へ避難してください。
- テントの中に高温に加熱されたものや発熱性のあるものを持ち込まないでください。火災や熱中症などの危険があります。
- 天候により、テント内は高温になり、熱中症などの危険があります。お子様の昼寝の際など、細心の注意を払ってください。
- 風の吹き抜けるような場所や、雪崩、がけ崩れ、急な出水などのおそれのない地盤のしっかりとした、水はけの良い平坦な場所を選んで設営してください。

⚠ 注意 ケガや本体破損、物品破損として拡大被害の原因となる行為を示します。

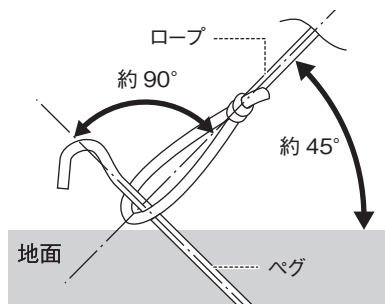
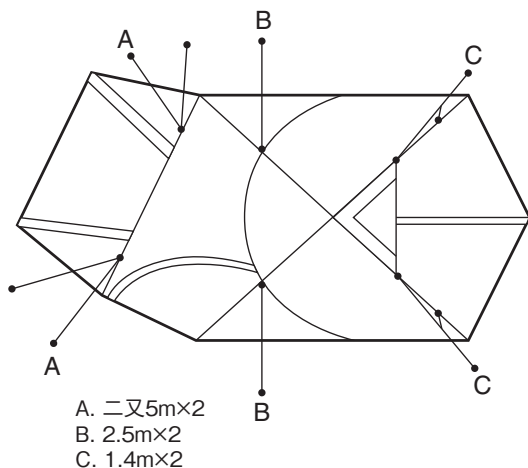
- 本製品は常設用ではありません。テントの素材は長時間日光にさらされた場合、退色や生地劣化などの強度低下を起きますので、常設用として使用しないでください。
- 日差しによりフライシートの表面は低温やけどに発展するほどの高温になります。十分にご注意ください。
- 焚火や花火などのそばで組み立てたり、使用しないでください。設営・撤収の際には、周囲に火気がないことを確認してください。火の粉を被り、生地に穴を開けてしまう場合があります。
- 樹液が付着するときれいに除去することができません。樹液が垂れそうな木の下を避けて設営してください。シンナーやベンジン等の有機溶剤により無理に除去しようとすると生地やコーティングを痛めてしまいますのでおやめください。
- テントの設営・撤収の際は、風に飛ばされないよう生地とフレームをしっかりと支えて作業してください。フレーム先端のハネ返り等と思わぬ事故に繋がるおそれがありますので、必ず周囲の安全を確認して作業してください。
- ベグとロープでしっかりとテントを固定してください。
- 薄い生地を使用していますので、生地を引っ張りすぎると破損するおそれがあります。ご注意ください。
- 足もとのビルディングテープ、ロープやベグ等にはご注意ください。足を引っ掛けて転倒し、思わぬ事故の原因となります。
- インナールーム内には小物を吊るすループが付いています。1kgを超えない範囲でご使用ください。

各部の名称



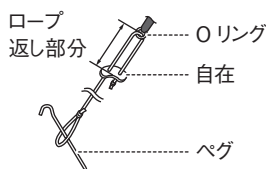
※ 前室メインドアをはね上げて使用する際は別途、ポール、ロープ、ベグをご用意ください。

自在付ロープのフライシートへの取り付け、ペグダウンの位置



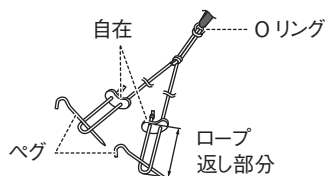
ロープの角度が地面に対して約 45°となるのが理想的なペグダウンの位置です。また、ペグを打ち込む角度はロープに対して 90°になるようにペグダウンしてください。

シングルロープの取り付け



ロープの自在が付いている返し部分が O リング側にくるように取り付けてください。

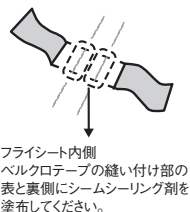
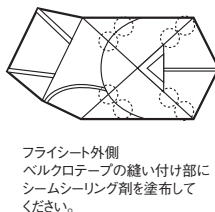
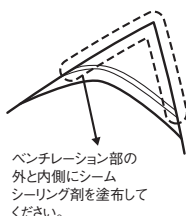
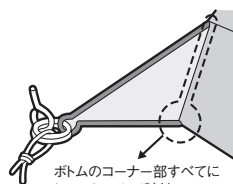
二又用ロープの取り付け



中間の結び目を O リングに通し返し部分がペグ側にくるように取り付けてください。

使用前の準備

本品にシームシーリング剤(目止め液)は付属していません。ご使用の際は、市販のシームシーリング剤をお買い求めください。縫製部分にはシームテープによる防水処理が施してありますが、フライシートのベンチレーション部やファスナー部、ボトムシートの一部は製造の都合上、または構造上、シームテープが施せない部分があります。通常の雨には十分対応できますが、長時間の大雨や横なぐりの雨、地面に雨水が溜まっているような状態では、縫い目から雨水が侵入することがありますので必要に応じて縫い目にシームシーリング剤を塗布してください。シームシーリング剤は縫い目にそって表裏の両面からうすく塗布し、よく乾燥させてください。シームグリップ剤は時間とともに硬化してきます。剥離したときは塗布しなおしてください。下記指定箇所以外の場所から雨水が侵入した場合も必要に応じて目止めを行ってください。



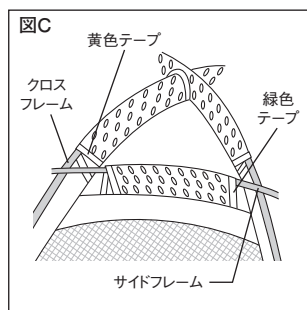
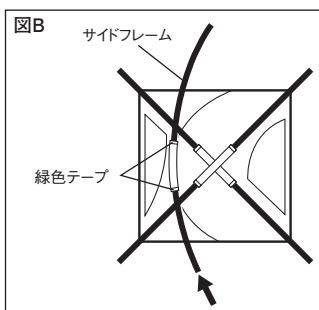
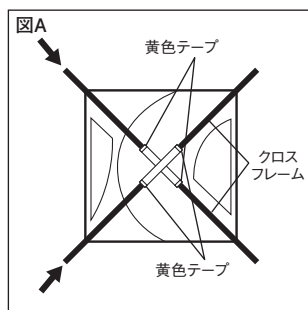
設営の手順 より安全に設営するためにも必ず2人以上で設営してください。

キャンプでテントを使用できるように、設営と撤収に関する次の説明に従ってください。付属品がすべて揃っていることをご確認ください。設営や撤収の際に大きな負荷をかけると、本体やフレームの損傷または事故の原因になる可能性があります。説明を理解するために、よく読んでください。

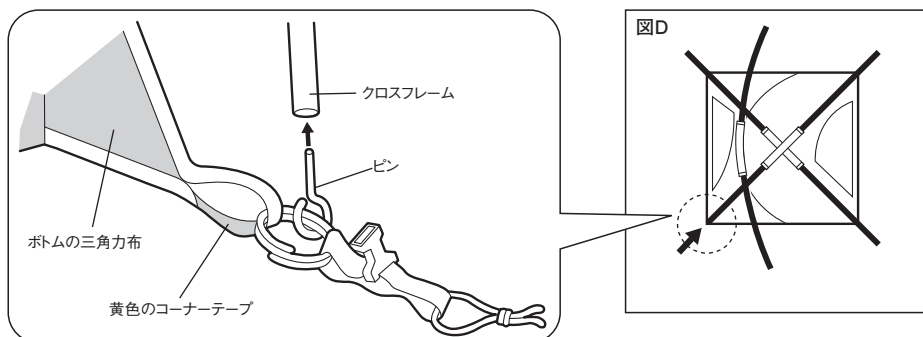
キャンプに行く前に、セット内容が揃っていることを確認してください。

安全のために、設営は必ず2人以上で行ってください。

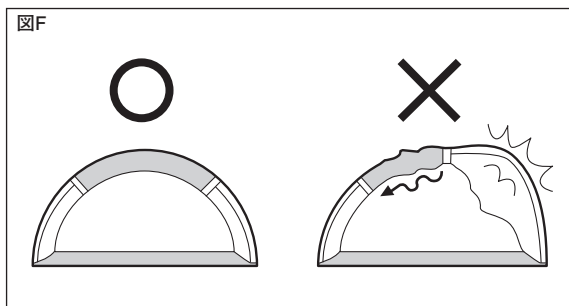
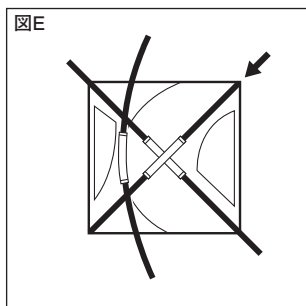
- ① テント本体を平らな場所に広げてください。
※テント本体の出入口は2カ所あります。ビルディングテープのある側が前室となり、メインの出入口となります。あらかじめ雨風などの予測をし、前室の方向を決めておく必要があります。
※基本的に前室は風下に向けてください。風上に向けると、雨風が侵入するばかりかドアを開けた際に突然風が入り、本体が破損する場合があります。
- ② 3本の本体フレームの内、先端が黄色の2本のフレーム（以後クロスフレーム）を伸ばし、接続部分をしっかりと連結してください。
※フレームの連結部分にすき間ができないように、しっかりと差し込んでください。
- ③ 2本のクロスフレームを黄色テープが付いたスリーブに1本ずつ、ゆっくりと送り込んでください。〔図A〕
- ④ 本体フレームのもう1本のフレーム（先端が緑色のフレーム、以後サイドフレーム）を伸ばし、接続部分をしっかりと連結してください。
※フレームの連結部分にすき間ができないように、しっかりと差し込んでください。
- ⑤ サイドフレームを緑色テープが付いたスリーブにゆっくりと送り込んでください。〔図B〕
※サイドフレームはクロスフレームの上を通してください。〔図C〕



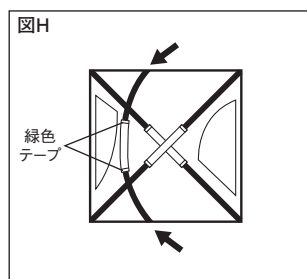
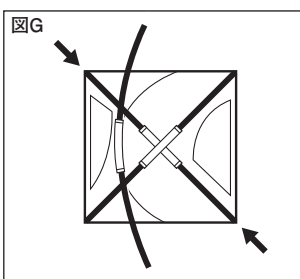
- ⑥ クロスフレームの先端にピンを差し込んでください。(クロスフレームのコーナーテープは黄色です。)[図D]



- ⑦ 差し込んだクロスフレームの反対側の先端にピンを差し込んでください。[図E]
※スリーブの位置が中央になる様に本体を調節しながら、ゆっくりとフレームの端部にピンを差し込んでください。一方から強引に押し込むと反対側が大きく湾曲し、フレーム破損の原因になります。[図F] 反対側の人と声をかけ合いながら行ってください。

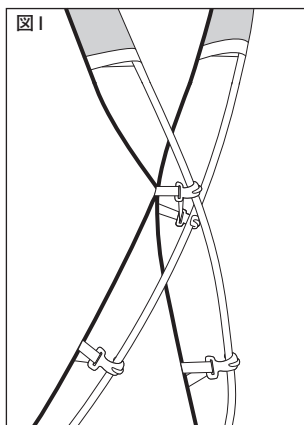


- ⑧ もう1本のクロスフレームも、同じ要領でピンを差し込み、テントを立ち上げてください。[図G]
※ドアパネルやサイドパネルを半分位開けておくと空気が室内に入りうまく立ち上がります。



- ⑨ サイドフレーム両端をピンに差し込んでください。(サイドフレームのコーナーテープは緑色です。)[図H]

- ⑩ 本体に付いているプラスチックフックを各々のフレームに引っ掛けてください。〔図I〕



- ⑪ 前後のドアパネルのファスナーを全て閉めてください。次に6カ所のコーナーテープ先端に付いているループにベグを通し、ボトムのたるみを取る様に番号順に軽く引き打ち込んでください。〔図J〕

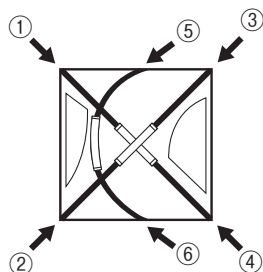
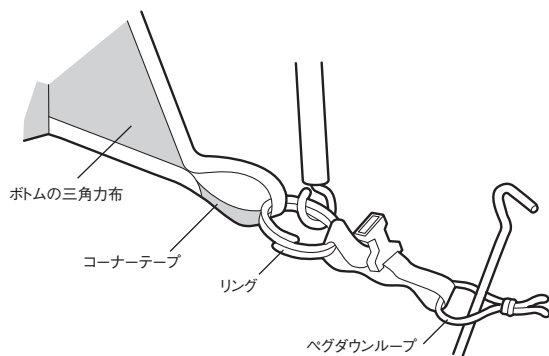
※ベグは最後まで打ち込んでください。

※ベグは無理に打ち込むと、曲がりや折れなどの破損につながります。

少しずつ打ち込み、石などの障害物に当たった場合は場所を変えてから打ち込んでください。

※ファスナーを閉めずにベグダウンすると、ドアが閉められなくなることがあります。

図J



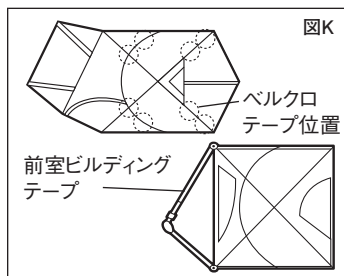
ボトムのたるみを取るように番号順に軽く引いてベグダウンする。

- ⑫ 前室・後室の方向を確認し、フライシートを被せてください。〔図K〕
※フライシートの内側についている、ベルクロテープをフレームに巻き付けて固定してください。ただし、テント撤収の際は、外し忘れにご注意ください。ベルクロテープが、フレームについてままフライシートを強く引っ張ると、ベルクロテープ破損の原因になります。

※前室ビルディングテープが接続されていることを確認してください。

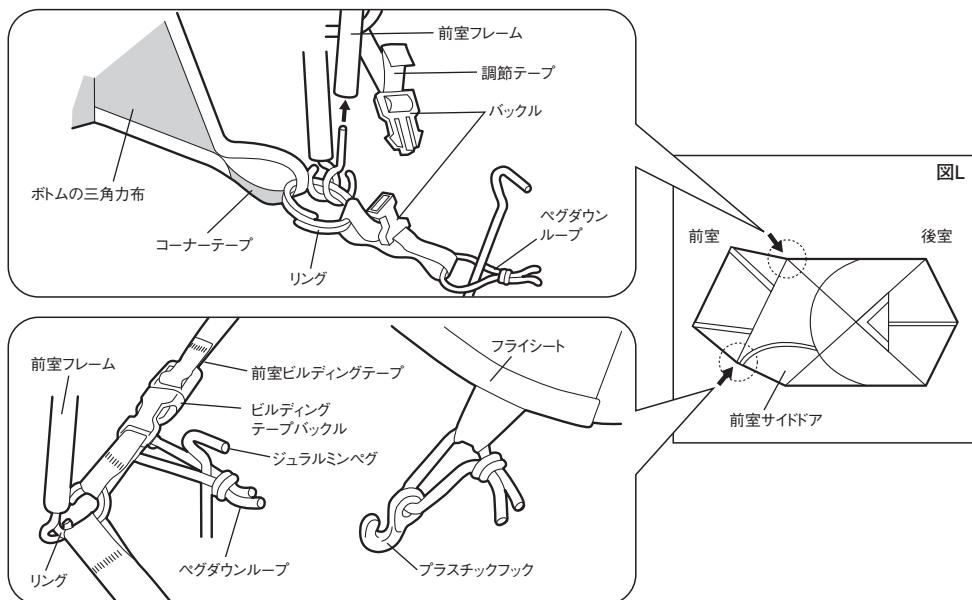
- ⑬ 前室フレームを伸ばし、接続部分をしっかりと連結してください(1本)。

※フレームの連結部分にすき間があかないように、しっかりと差し込んでください。



- ①④ フライシート前室のスリーブに前室フレームをゆっくりと送り込み、フレーム両端にピンを差し込んでください。〔図L〕

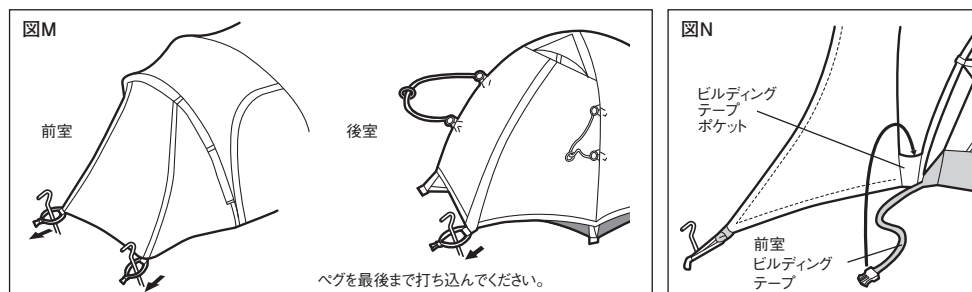
- ①⑤ フライシート各コーナーの6個のバックルをボトム側のリングに付いているバックルに接続してください。全てのバックルを接続した後フライシートのたるみをとるために調節テープを引き、テンションをかけてください。〔図L〕
※引きすぎにご注意ください。調整テープを引きすぎるとフライシートが破損するおそれがあります。



- ①⑥ 前室サイドアコーナーのプラスチックフックをリングにかけてください。〔図L〕

- ①⑦ 前室・後室の先端を引き、ゴムループにペグを通し、打ち込んでください。〔図M〕
※ゴムループを引きすぎると、ファスナーに負担がかかり破損するおそれがあります。

- ①⑧ 全てのコーナーをペグダウンした後、前室ビルディングテープのバックルを外しテープをまとめてテープポケットに収納してください。〔図N〕



- ①⑨ 3ページの「自在付ロープのフライシートへの取り付け、ペグダウンの位置」の図のように各自在付ロープをフライシートに取り付けて引き、ペグで固定してからテンションをかけてください。
※ロープは引き過ぎるとフライシートに負担がかかり破損するおそれがあります。引き過ぎにご注意ください。

収納時の注意事項

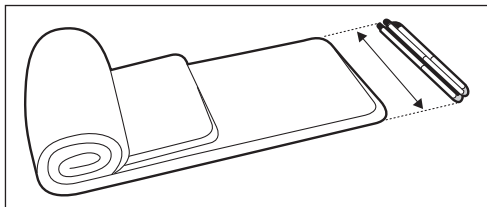
- 撤収の際はまず前室ビルディングテープを接続して、作業を始めてください。〔図K〕
- フレームをピンから外す時はフレームがハネ返り危険です。フレームが真っすぐになるまで手を離さないでください。
- サイドフレーム、クロスフレームをピンから外す際は、プラスチックフックをつけたまま外してください。（全てのフレームをピンから外した後、プラスチックフックを外してください。）
- スリーブからフレームを取り出す際は、押し取り出してください。
※フレームを引いて取り出すと、スリーブの中で連結部が外れることがあります。必ず押し出してください。外れた連結部で生地を痛めることがあります。
- フレームは中央から端に向かって折り畳んでください。端から折り畳むとショックコードに負担がかかり伸びや切断の原因になります。伸びが発生した場合、フレームを押さえる力がなくなり、フレーム折れの原因となります。ショックコードのテンションは定期的に点検してください。
〔図O〕

図O



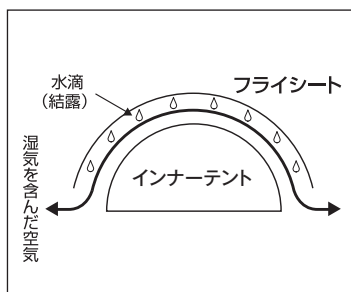
ケースへの収納

- ①キャリーバッグの長さに合わせ、本体、フライシートを折り畳みキャリーバッグの中に入れてください。
- ②フレームやベグはそれぞれ付属の収納ケースに入れ、キャリーバッグに収納してください。むきだしの状態で収納すると本体生地やキャリーバッグを損傷するおそれがあります。



結露について

空気中に含まれている水分が急激に冷やされて霧状になったものが結露として現れます。特に狭いテント等の空間では、通常の室内よりも水蒸気の濃度が高くなり、結露の発生する確率が高くなります。原因としては、人体構成要素の約60%を占める水分が、呼吸や汗などにより放出され、水蒸気となりテント内に結露が発生します。テント内では、特にフライシート・ボトム部分などの防水性能が高い部分に結露が発生しやすくなります。結露は優れた透湿防水素材でも使用状況により完全に防ぐことは不可能です。ご使用中は結露軽減のために適時換気を行ってください。



撥水・防水性能について

- フライシートの生地には撥水加工を施していますが、生地の特性上、撥水性能(撥水の仕方や耐久性)に若干の差が見られる場合があります。また、撥水加工は、ご使用を重ねますと撥水性能が低下します。撥水性が衰えてきたときには、市販の撥水スプレー等を使用してください。スプレーご使用の際は、スプレーの注意書きをよくお読みください。
- この製品には、防水機能が高い素材を使用していますが、地面の水溜まりなどへ長時間接触していると雨水が浸み込む場合があります。
- 農薬などでPUコーティングが破壊され耐水圧が異常低下してしまう場合があります。この症状と判断された場合、製品の保証ができなくなりますのでご注意ください。
- 撥水剤の影響によりロゴマークが剥離する場合があります。

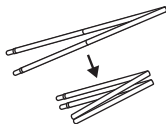
紫外線の影響について

- フライシートの生地にはUVカット加工を施しています。UVカット加工は、人体にとって有害な紫外線の透過を抑えるとともに、生地の強度劣化を緩和します。
- ※UVカット加工は、紫外線による人体への影響や、素材劣化を防止するものではありません。
- テントの素材は長時間日光にさらされた場合、退色や生地劣化などの強度低下を起こしますので、常設用として使用しないでください。
 - 紫外線の影響と思われる素材の劣化により、耐久度合いを超えたものは弊社でも修理できない場合があります。

メンテナンス・保管

- この製品はポリエステル生地を組み合わせで使用しています。生地の特性を考慮し、できる限り色移りし難い加工と配色パターンを採用していますが、保管状態などにより、色移りが発生する場合があります。ご了承ください。また、濡れたままの保管は避けてください。
- 製品表面の汚れを落とし、十分に乾燥させてから保管してください。濡れたまま保管すると、カビや悪臭、生地の色移り、生地の劣化などのトラブルの原因になりますので、使用後は風通しの良い日陰で十分に乾燥し、柔らかいブラシなどで泥汚れを落としてから保管してください。
- フレームは表面の汚れを落とし、十分に乾燥させてから保管してください。濡れたまま保管すると腐食、強度が低下します。ジョイント部分は常に清潔にし、少量のシリコン系潤滑剤を軽く塗布してください。塗布しすぎると生地に油ジミができますのでご注意ください。また、フレーム内のショックコードは不必要に引っ張らないでください。
- フレームを収納する際は、中央を意識しながら折り畳んでください。(図P)
- ファスナーに泥や砂、ホコリなどが付着したまま使用すると摩耗し破損の原因になりますので、ブラシなどを常に清潔にしてください。また、スライダーの動きを滑らかにするために、少量のシリコン系樹脂剤を定期的に塗布してください。塗布しすぎると生地に油ジミができますのでご注意ください。
- ご使用により広範囲にわたり素材が劣化し、耐久度合いを超えたものは修理できない場合があります。
- シームテープはPUコーティングが痛まない程度の温度設定で圧着されていますが、使用を重ねるに従い剥離してしまう場合があります。剥離が確認された場合は、アイロンを低温に設定し、剥離箇所のみを再度圧着してください。熱を掛け過ぎた場合、生地が変色したり劣化が促進されますのでご注意ください。PUコーティングが一緒に剥離された場合、修理できなくなる可能性があります。
- 樹液が付着してしまうときれいに除去することはできません。樹液が垂れそうな木の下を避けて設置してください。溶剤などにより無理に除去すると生地やコーティングを傷めます。
- 次回の使用に備え、ベグなどの付属品も含め、十分に保守、点検をしてください。
- 長期間ご使用しなかった製品を再度お使いになる際は、本製品を点検し各部に異常がないことを確認してください。異常が発見された場合は、直ちに使用を中止しお買い求めいただいた販売店様、または弊社ユーザーサービス係に点検または修理を依頼してください。

図P



こんなときは

Q:キャンプ場でフレームが折れてしまったとき

A:応急処置として速やかに付属のリペアパイプや添え木をあて、ビニールテープなどで固定するか、撤収してください。

Q:キャンプ場で本体生地が破れてしまったり、穴があいてしまったとき

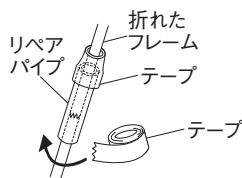
A:傷が広がらない為に、速やかにガムテープなどで両面から貼り合わせるか、市販のリペアキットなどで補修してください。市販のリペアキットご使用の際は、リペアキットの注意書きをよくお読みください。

Q:撥水が衰えてきたとき

A:撥水加工は、ご使用を重ねますと撥水機能が低下します。撥水が低下してきた場所に撥水スプレーなどを使用してください。スプレーご使用の際は、スプレーの注意書きをよくお読みください。

Q:生地にカビが発生したとき

A:カビの発生箇所を乾拭きし、アルコールで滅菌処理してください。カビにより生地が着色された場合、取り除くことはできません。無理な除去作業は生地やコーティング劣化の原因となりますのでお避けください。



品質保証について

お買い求めいただきました製品は万全を期していますが、万一不備な点がございましたら、お買い求めいただいた販売店様もしくは弊社または各製品に記載された連絡先にご相談ください。製造上の欠陥が原因の場合は無償で修理または交換させていただきます。その他の場合は適切な価格で修理させていただきます。修理、交換の判断は弊社の裁量によるものとさせていただきます。また、以下の場合は修理できない場合もありますので予めご了承ください。

1. 素材の経年劣化による損害など商品の寿命。
2. 改造および粗雑な取扱いによる故障。
3. 取扱説明書で禁止されている取扱いによる故障。
4. 不測の事故による商品の故障。
5. その他製造上の欠陥以外による製品の故障。
6. ゴミやさびによる故障。
7. 分解したことによる不具合の発生または破損。
8. 落下やその他の衝撃による部品の変形や破損による不具合。
9. 摩擦によるパーツの変化及びそれによる故障。
10. 他社製品との組み合わせによる故障。

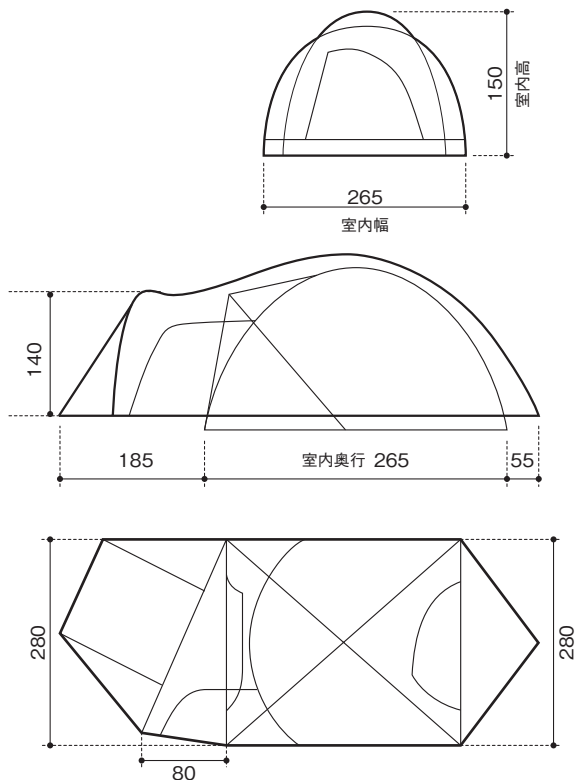
修理について

- 本格的な修理が必要な場合は、お買い求めになった販売店様または弊社ユーザーサービスまでお問い合わせください。
- 修理を依頼される場合は、必ず十分に乾燥させ、汚れをきれいに落としてください。
- 修理品には修理箇所がはっきりと解るように、必ずメモまたは荷札を付けてください。また破損時の状況をできるだけ詳しく書いたメモを添えてください。
- 修理品の運賃並びに修理費については以下のように規定させていただきます。
 - 1.保証対象の場合:往復運賃並びに修理費は弊社にて負担いたします。
 - 2.保証対象以外の場合:往復運賃並びに修理費は、お客様のご負担とさせていただきます。

スペック

- 材質：フライシート／75D難燃性ポリエステルタフタ・PUコーティング耐水圧1,800mmミニマム・撥水加工・UVカット加工、インナーウォール／68D難燃性ポリエステルタフタ、ボトム／210D難燃性ポリエステルオックス・PUコーティング耐水圧1,800mmミニマム、フレーム／A7001+A6061（ $\phi 12.8\text{mm} + \phi 12\text{mm} \cdot \phi 11.8\text{mm} + \phi 12\text{mm}$ ）
- セット内容：テント本体、本体フレーム（×3）、前室フレーム（×1）、ジュラルミンペグ（17cm×18）、自在付ロープ（1.4m×2、2.5m×2、二又5m×2）、リペアパイプ、キャリーバッグ、フレームケース、ペグケース
- キャリーバッグサイズ：74×22×25(h)cm
- 重量：8kg

単位はcm



不明な点やお気付きの点がございましたら、販売店様または弊社ユーザーサービスまでお問い合わせください。

スノーピークユーザーサービス

0120-010-660 (9:00~17:00)

Email: userservice@snowpeak.co.jp

株式会社スノーピーク

〒955-0147 新潟県三条市中野原456

Tel.0256-46-5858 / Fax.0256-46-5860

www.snowpeak.co.jp

MADE IN VIETNAM